

県営林道開設事業 犀鶴線

評価結果

森林基幹道の開設により、森林整備の推進、森林施業の効率化及び森林資源の利用促進が図られた。また、金沢市と白山市を結ぶ重要な道路となり地域住民の交通の利便性の向上や森林レクリエーションの場の提供が図られた。

地区概要

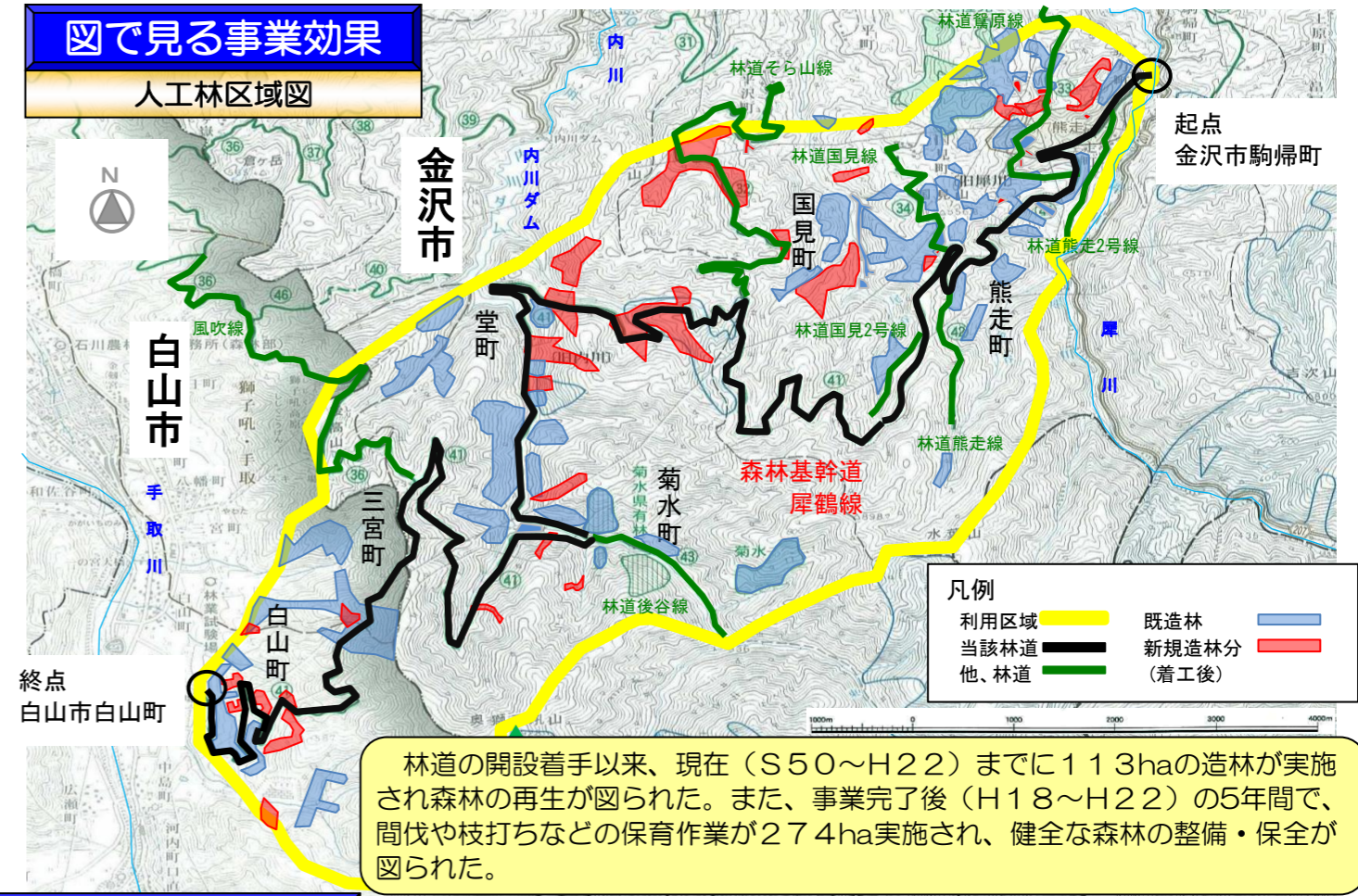
- 箇所名：石川県金沢市駒帰町～白山市白山町地内
- 工事内容：森林基幹道整備31km
- 総事業費：5,488百万円 ■利用区域：3,230ha
- 事業期間：昭和50年度着工～平成17年度完了

位置図



図で見る事業効果

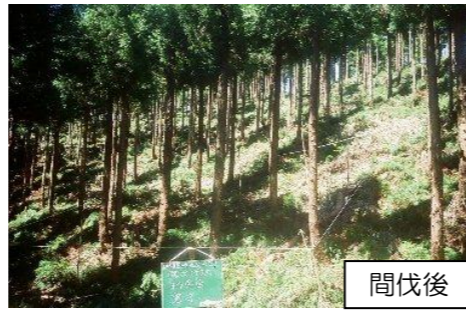
人工林区域図



林道の開設着手以来、現在（S50～H22）までに113haの造林が実施され森林の再生が図られた。また、事業完了後（H18～H22）の5年間で、間伐や枝打ちなどの保育作業が274ha実施され、健全な森林の整備・保全が図られた。

森林整備の推進 (造林,枝打ち,間伐等)

以前は、目的の林地まで遠距離を徒歩移動していたが、林道整備により移動時間が短縮され、森林施業の効率が格段に高まった。



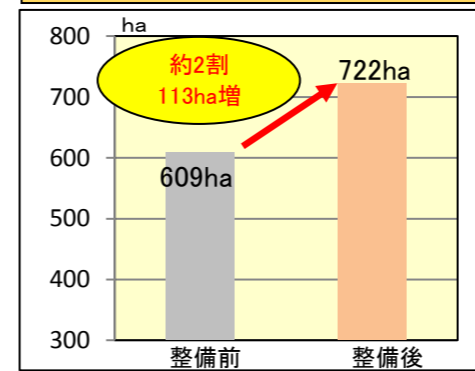
森林施業の効率化 森林資源の利用促進

大型林業機械を使用した生産性の高い森林施業が促進され、林道利用区域内の間伐材搬出量がH13～H17（5年間）の145m³からH18～H22（5年間）で約10倍の1,497m³となり、間伐材の利用促進と木材の供給拡大につながった。



数字で見る事業効果

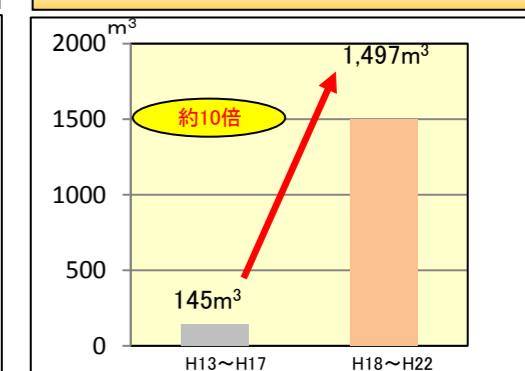
森林整備の推進 (人工造林面積の増)



森林施業の効率化 (利用区域内の路網密度の増)



森林資源の利用促進 (間伐材搬出量の増)



地元の声

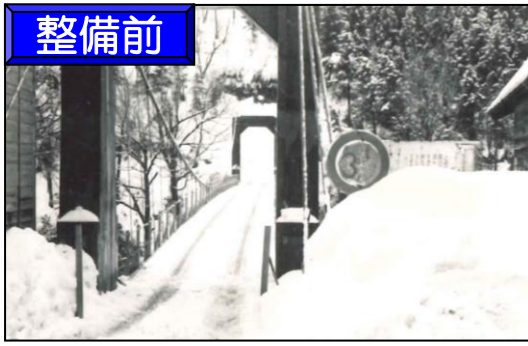
- ・開設により所有する森林や土地に行きやすくなった。
- ・機械化が進み木材運搬が容易になった。
- ・荒廃した山林が整備され土砂災害の不安が少なくなった。
- ・サイクリングやトレッキングをする人が増えた。
- ・簡易水道の管理が便利になった。

今後の取組み

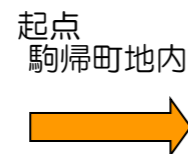
区域内の人工林の多くが資源として本格的に利用可能な段階を迎える中、林業生産性向上のため、さらなる低コスト作業システムの確立が課題となっているため、その基盤となる林業専用道、森林作業道等林内路網の整備を推進する。
 また、林道の適切な維持管理や活用の促進を図り、森林の多面的機能の持続的発揮や林業の再生、木材産業の振興、里山資源を活かした山村の振興など森林の総合的な施策に寄与することを目指す。

交通の利便性の向上

整備前



幅員 W=2.8m 昭和50年当時 (熊走橋)



整備後



幅員 W=5.0m 平成23年現在 (熊走大橋 昭和52年架橋)

道路幅員が広がったため、地域の交通の利便性が向上した。

地域住民の事業に対する評価

「あなた自身犀鶴線が整備されたことに満足していますか？」

